

諏訪地方におけるツガマイタケについて

小山明人*

1、はじめに

ツガマイタケ *Osteina obducta* (Berk.) Donk はタマチョレイタケ目ツガサルノコシカケ科ツガマイタケ属の基準種である。本種は 1960 年に富士山で開催された日本菌学会フォーレにてコメツガの切株から採集され、その後、日本新産種、和名をツガマイタケとして発表された。筆者は 2012 年、山梨県北杜市高根町清里で開催された神奈川キノコの会の観察会で本種を知り強い関心を持った。その後、南アルプス山系の山梨県北杜市白州町のカラマツ林で群生地を確認した。

ツガマイタケは長野県版レッドデータリスト 2014 において情報不足のカテゴリーにランクされ、説明では「1 属 1 種の世界的にも非常に稀な種」となっている。また、リスト改訂の部分では菌類は「生育状況そのものの情報が不足している種が多い」ともされている。そこで諏訪地方の分布を中心に併せて発生期間を調査することにした。

2、調査方法

分布については茅野市八ヶ岳総合博物館キノコグループ有志に協力を仰ぎ基質を確認し採集した。発生期間については、八ヶ岳山麓沢沿いの林道沿いで発生した子実体についてマーキングし（図 1）、発生から消滅するまでを観察した。発生期間の調査は 6 月 8 日から 10 月 1 日までの 7 回実施した。

3、結果

発生地点を表 1 に示す。コメツガに発生した子実体は 2 か所、カラマツに発生したものは 4 か所であった。また、コメツガに発生した箇所は尾根上の乾燥気味の場所であり、カラマツに発生した箇所は沢沿いの多湿地や基質がコケむしているような箇所が多かった。

発生期間を表 2 に示す。八ヶ岳山麓の沢沿いで 9 子実体について観察した。幼菌から消滅するまで確認できたのは 3 子実体でそれぞれ 23 日間、53 日間、35 日間だった。また、初見日は 6 月 8 日、最終は 10 月 1 日だった。

4、考察

分布については八ヶ岳山系や南アルプス山系に渡っていた。標高は 1646 m が最低で最高は 1970 m だった。ただし、2013 年に採集した子実体は 2100 m だった。これらのことや日本新産種として採集された子実体が山梨県側の富士山であったこと、全国のレッドデータリストでは埼玉県（奥秩父山系）、愛媛県（東予地方）が指定していることから本種は広範な分布が予想される。また、標高は諏訪地方でも 1600 m 以下では観察されていないことから亜高山帯に近い環境に発生すると思われる。今後は標高の下限を確認すること、長野県下での分布を調査する必要がある。

発生期間については以前から初夏に発生することが知られていたが、情報不足の原因はきのこ狩りの季節から外れていることが考えられる。また、今回の調査では 6 月 8 日から 10 月 1 日まで発生していたが 8 月中旬から 9 月にかけて長期の雨、ないしは曇りが続き気温が低かったことも長期化の原因として考えられる。さらに、子実体ごとの発生は 23 日から 53 日間であり予想よりも長かった。今後は数年の観察を行い、より精度を高めたい。



図 1

謝辞 調査にあたり市川浩久氏、牛山雄二氏、岡本巖・美佐子氏にご協力いただきました。感謝いたします。

* 菌類懇話会事務局長

表1	ツガマイタケの発生地点						
----	-------------	--	--	--	--	--	--

標本No.	月	日	採集地	標高	採集者	採集地環境
1409	6	6	諏訪郡原村	1666m	市川 浩久	
1419	7	7	茅野市豊平	1930m	牛山 雄二	コメツガ
1421	7	8	茅野市豊平	1970m	牛山 雄二	コメツガ
1424	7	10	茅野市北山	1800m	岡本 巖	カラマツ切株上
1431	7	15	諏訪郡原村	1760m	小山 明人	カラマツ切株上
1448	8	2	諏訪郡富士見町富士見	1646m	小山 明人	カラマツ切株上

表2	ツガマイタケの発生期間								
----	-------------	--	--	--	--	--	--	--	--

No.	標高m	6月8日	6月23日	7月15日	7月30日	8月18日	8月27日	10月1日	備考
1	1784	成菌	成菌	終わり					
2			幼菌	終わり					
3	1760			成菌	成菌	やや終わり	終わり		
4	1776			成菌	終わり				
5	1700			幼菌	終わり	終わり			
6					成菌	成菌	成菌	終わり	
7					成菌	終わり			
166			やや成菌						
259	1776	幼菌	幼菌	やや終わり	終わり	新株成菌	成菌		